



## 卸売業新春トップインタビュー

加藤産業

加藤和弥社長

**【大阪】** 加藤産業は、卸の「つなぎ」の役割を重視。全国にある11支社25支店・営業所を中心に、地域に密着した提案営業で得意先・仕入れ先との取り組みを深化させている。強みである現場の力をより発揮していくため、「営業機能の高度化」を重要方針のひとつに掲げ、営業社員の教育、全国ネットワークの活用などを進める。

また、ロジステイクスの機能強化にも注力する。全国各地に物流センター約80拠点を保有しており、市場の変化に対応したセンターの再配置も行いながら、生産性の向上や機能の強化、共同配送の推進に取り組んでいく。

加藤和弥代表取締役社長執行役員に、昨年の振り返りと今年の展望について聞いた。

ことは重要だが、同時に、  
応用力を高めるためにはロジックを知つておくことが  
必要になる。自分で考える  
力をつけていくことが大事  
だ。

の役割。会社発信の業務改革だけではなく、今年はさらに現場発信の取り組みを進めていきたい。

### ——ロジスティクスの機能強化について

ると準備段階で、機械化もまだそれほど大胆には進めていらない。

湘南センターはこれから取り組みのスタートとなる。今後、既存のいくつかのセンターを統合しながら再配置を検討していく。マンパワーの問題もあるので、年1カ所か2カ所の

も変わり、株も起つてている。この背景のなか、小売業の競争がエリアを跨いで激化している。競争激化や再編の流れは以前から続いているものだが、昨年はますます顕著になった。今後も変化が継続していくなかで、大きな転換点になる年だつたのではないか。卸、小売、メーカーとも常に話していることだが、一過性の変化を捉えて商機とすることも大事だ。

この背景のなか、小売業の競争がエリアを跨いで激化している。競争激化や再編の流れは以前から続いているものだが、昨年はますます顕著になった。今後も変化が継続していくなかで、大きな転換点になる年だつたのではないか。卸、小売、メーカーとも常に話していることだが、一過性の変化を捉えて商機とすることも大事だ。

この背景のなか、小売業の競争がエリアを跨いで激化している。競争激化や再編の流れは以前から続いているものだが、昨年はますます顕著になった。今後も変化が継続していくなかで、大きな転換点になる年だつたのではないか。卸、小売、メーカーとも常に話していることだが、一過性の変化を捉えて商機とすることも大事だ。

この背景のなか、小売業の競争がエリアを跨いで激化している。競争激化や再編の流れは以前から続いているものだが、昨年はますます顕著になった。今後も変化が継続していくなかで、大きな転換点になる年だつたのではないか。卸、小売、メーカーとも常に話していることだが、一過性の変化を捉えて商機とすることも大事だ。

この背景のなか、小売業の競争がエリアを跨いで激化している。競争激化や再編の流れは以前から続いているものだが、昨年はますます顕著になった。今後も変化が継続していくなかで、大きな転換点になる年だつたのではないか。卸、小売、メーカーとも常に話していることだが、一過性の変化を捉えて商機とすることも大事だ。

それぞれの取り組みが積み重なって、それが全体が形作られていくのが当社らしさだと思ふ。

アイテム数も増えている。  
相反して、食品ロス削減  
の課題やサステナビリティ  
の課題があり、両立させて  
いくことが将来的にも重要  
になつてくる。

たが、もう少し高度化していくのがファイジカルインターネットを構築する取り組みだ。

した大阪・関西万博は、報道がほとんどなくスケートしたが最終的には大きく盛り上がりで閉幕した。万博開幕直前にはトラブルが発動し、懸念が多くあつたが初期よりは影響が小さい形に收まりつつある。この間に日本の政権

**転換期、全社**

**社を挙げて変**なつたのではないだろうか。  
——直近の取り組みについて。若手営業社員の教育は変化対応の一環か  
長期的な市場の変化に対

化対応の取  
いないと対応ができないので、ロジックを理解することも含めた基礎固めが必要だ。

を共有することを増やしていくことが目指す方向性のひとつだ。

また、近年こだわり商品で差別化する小売企業が増えており、当社で取り扱う

他の卸と連携して共同配達するには、どこに共同配送のチャンスがあるのかを探つていかなければならない。データを元に、共同配送にしたら大きな成果が出る組み合わせを、今までは人が考えて判断していく

# ——2025年の振り返り

が、それ以上に継続的に起  
こつている変化に対応して  
いくことが重要だ。

中長期的には、人口ピラ  
ミッド、業界全体がいいよ  
く腰を入れて変わっていかな  
ければならない。25年はこ  
のチャレンジを始めた年に

く、現場ごとにいろいろな問題意識を持ち、自ら動いていくことが大事だ。そのためには考え方を理解して

から、社内で物流の共同化・合理化を図るための再編を行う。

順次拠点整備していくれば  
と思う。